避難マップの作り方

1 自宅周辺の危険なエリアをチェック

まずは自宅の位置を確認し、○印をつけましょう。次に自宅周辺の土砂災害警戒区域（イエローゾーン）や土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）、洪水による浸水想定区域などの危険な箇所をチェックしましょう。

地図上の表示例

急傾斜地の崩壊（がけくずれ）

土石流

地すべり

洪水による浸水

土砂災害警戒区域　洪水浸水想定区域

わが家の避難マップ作成例

ポイント　危険なエリア等の中だけでなく、その周辺でも被害が出る恐れがあるので注意が必要！

ハザードマップで、自宅周辺のイエローゾーンやレッドゾーン洪水浸水想定区域をチェック！

2 緊急避難場所などの避難先をチェック

災害から逃れるための場所として、災害の種類ごとに「緊急避難場所」を指定しています。親戚や知人の家など、安全な場所があれば、そこも避難先の候補にしましょう。

ポイント
1. 「避難」とは「難」を「避」けることです。
2. 丈夫な建物の上階など安全を確保できる場合は自宅に留まることや、安全な親戚・知人宅への避難も考えられます。
3. さまざまな災害の状況を想定し、複数の避難先を確認しておきましょう。

3 避難先までの避難ルートを書き込む

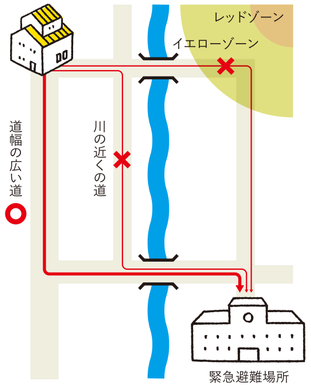
以下のポイントに気をつけながら、自宅から避難先までの避難ルートを書き込みましょう。

避難ルートを選ぶポイント

- ○道幅の広い道路を選ぶ
- ○なるべくイエロー（レッド）ゾーンを避けるルートを選ぶ
- ○「川」や「がけ地」沿いの道は、なるべく避ける

危険が迫っている時の注意点

- ○「がけ地」「谷の出口」付近には、絶対に近づかない
- ○イエロー（レッド）ゾーンから離れる最短ルートを選択する
- ○道路が冠水したり、川のようになっている箇所は絶対に通らない
- ○川の横断の際は水位に注意する



わが家の避難マップ作成例

4 実際に歩いて、避難ルートをチェック

マップ上で確認した避難ルートを実際に歩き、危険な場所や注意点などをチェックして、危険な場所には「×」を、注意が必要な場所に「△」を、付けましょう。ふせんなどがあれば、コメントを書き入れて分かりやすくしましょう。

坂道や階段などの歩きやすさをチェック！
距離だけでなく、避難のしやすさも確認しましょう。

夜間などを想定し、街灯もチェック！
街灯がない場合は、懐中電灯を用意。

川や水路など、大雨の際に危険な箇所をチェック！
川は、横断する前に水位を確認。水路があふれると、道路との境界が分からなくなる場合があります。

自宅から避難先までの時間も確認！
風雨の影響で足元が悪いことも考慮して、時間に余裕をみておきましょう。

落石や鉄砲水の恐れがある箇所をチェック！
がけ地や谷の出口付近の道は、注意が必要。

危険な場所、気が付いたことをメモ！
現地で確認できたことは、その場でメモ。カメラなどで撮影しておけば、家族での共有も簡単です。

ポイント
1. 実際に歩いてみて、危険が見つかった場合は、避難先や避難ルートの見直しをしましょう。
2. がけ地沿いの道や橋など、どうしても危険な場所を通らなければならない場合は、早めの避難を考えましょう。

わが家の避難マップ作成例

5 「わが家の避難マップ」完成！

完成した「わが家の避難マップ」は、いつでも目に見つく場所や手の届くところに保管しましょう。

過去の災害も参考に！

神戸は、大きな災害を過去にいくつも経験しています。それらの教訓を後世に伝えるため、まちには石碑などのさまざまな「サイン」があります。災害について、まちの歴史から学ぶことも大切です。

阪神大水害を伝える石碑（旧住吉村）

家族で話し合って、共有を

本マップを活用して家族で「災害から命を守ること」について話し合い、避難場所の確認だけでなく、連絡方法や家族のルールなどを決めておきましょう。さらに、決めた内容を「くらしの防災ガイド」の「わが家の避難ルール」に記入して、家族みんなで共有しておきましょう。